

World's Window

さあ、窓を開けて世界をのぞいてみようよ



Vol.37

ナバホ国家



世界の国々や地域を紹介するコーナー「ワールズ・ウィンドウ」!

案内役は、7月まで国際交流員として働いていたメアリー・ウェザバーンさんです。

Hello! メアリーです。8月は本当に暑かったですね!最初に鶴田町に来たときも、こちらの夏は本当に暑いなあと思ったものです。今は好きですけど。わたしは8月の上旬に帰国しましたが、わたしにとって最後となるワールズウィンドウでは、とても変わった興味深い国をご紹介します。



19世紀、アメリカはネイティブアメリカン(先住民)の土地を奪い、彼らを追放してしまいました。しかし、そうした行為がすべての土地で行われたわけ

ではなく、及ばない土地もありました。そのような土地は現在、独自の自治権を得て、アメリカ政府とは別個の独立した「国家」となっています。言い換えればネイティブアメリカンたちはアメリカという国の中において自分たち自身が統治する権利を手にし、自分たちの国をつくり上げたというわけです。現在563の部族、国家の存在が確認されていますが、彼らネイティブアメリカンたちはアメリカにいながらにして、アメリカとは異なる法律、教育、税金、医療などの体制を確立しています。例えば、多くのカジノはネイティブアメリカンの国家内に存在しています。なぜならばアメリカの多くの州ではギャンブルは禁じられていますが、ネイティブアメリカンの国家の中では合法とされているからです。しかし、ネイティブアメリカンの国家が権限を持っていないのもまた事実です。例えば自分たちだけの貨幣や紙幣製造の禁止、宣戦布告の禁止などがあげられます(これはアメリカの各州も同じですが)。



ナバホ国家はアメリカで最も大きいネイティブアメリカンの国家です。アメリカ北部に広がるとてもなく広大な国家の広さはなんと7万平方キロメートル、それは青森、秋田、岩手の三県を合わせた大きさに匹敵します。アメリカには30万人以上のナバホ族が住んでいるそうですが、その60%がこのナバホ国家に居住しているとされています。ナバホ国家では、英語とナバホ語の両方が使われています。ナバホ語を母

国語とする人口は約10万人で、その数は増え続けています。動詞が多く、名詞が少ないのが特徴で、第二次世界大戦中、ナバホ語は軍事用の暗号として使用されていました。なぜならばそれまでナバホ語を聞いた人はほとんど存在せず、非常に難解な言語とされていたからです。多くのネイティブアメリカンの国家がカジノの存在を認める中、ナバホ族は自分たちの土地にはカジノを建てませんでした。彼らは羊や牛の飼育、織物、宝石の加工や芸術品の製作によって生計を立てています。

そしてナバホ族といえば**ターコイズ**ジュエリーや砂絵、美しい銀細工などがとても有名です。ターコイズは美しいだけでなく、ナバホ族にとっては宗教的に重要な意味を持ち、一人一人の幸福を象徴するものです。砂絵は癒しの儀式において製作されます。薬の調合などにも携わる呪術医が、さまざまな土地から集めた非常にきめの細かい砂を用い、その砂で地面に画像を描きます。その後、呪術医と病人がその砂絵の所定の位置につき、呪術医が聖歌を歌いはじめます。すると、砂で描かれた絵の力が病人へと移り、病人が治癒すると考えられているのです。ナバホ族の人々は本当にお年寄りや子どもの面倒をよく見ます。そしてよく笑います。赤ちゃんの誕生を祝う特別な儀式の時さえも笑い声が聞こえてきます。



ナバホ国家は青森県とはほど遠い所のように思われますが、実はそのナバホから五戸町にやってきている男性がいます。その男性や私のように世界中からたくさんの人々が鶴田町のような自治体に招致され、青森県内で国際交流事業に携わっています。このようにワールズウィンドウで紹介してきた土地の文化に触れたり経験する機会は、あなたが思っているよりも身近なところに存在しているのかも知れませんね。